

プレジジョン・システム・サイエンス社長
田島 秀二氏

全自動PCR検査システムや試薬を製造するプレジジョン・システム・サイエンス（PSS）は、2022年11月に京都大学と共同研究契約を結び、試薬や全自動PCR検査器の研究、開発を進めている。今後、全自動PCR検査器のがん検査など用途拡大が焦点になる。今後への布石となる京大との研究、開発の現状と展望を田島秀二社長に聞いた。

アライアンス戦略

イノベーションを起こす

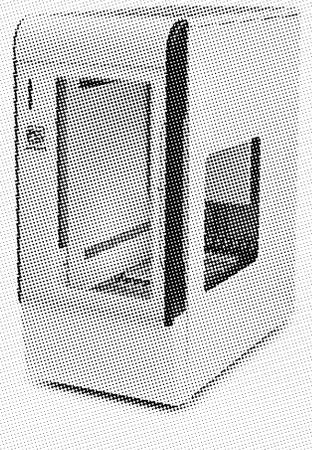
「検査器の用途拡大に向け、患者自身の細胞を用いてがん闘争『CAR-T細胞療法』に注目している。白血病など免疫細胞系のがん治療に効果的な治療法だ。治療プロセスでCAR-T細胞ががん細胞を攻撃できるまで増やす際に、自動化技術が有効だ。より検査を高速化する検査システムの研究、開発も進めている」

「京大との共同研究の狙いは、

「細胞医療で最先端の知見を持つ京大と研究できるのは、とてもありがたい。京大は以前から全自動PCR検査システムを高く評価してくれていた。共同

細胞医療、京大の知見生かす

全自動PCR検査機器「ジーンリード8」



出しますか。

「用途拡大では新たな社員教育も必要になる。共同研究は、人材教育の機会にもなると考えている。さまざまな知見を有する京大との提携を通じて、臨床試験など研究成果の早期実用化を進めて社会に貢献していきたい」

「今後、共同研究でどのような効果を生み

（千葉・八家宏太）

がんなど幅広く活用

チェック
ポイント

PSSの全自動PCR検査システムは20年以降の新型コロナウイルス感染症の流行で注目され、全国約300カ所の医療機関が導入した。

だが、同検査システムの用途は、新型コロナウイルスの検査にとどまらない。田島社長は、がん検査など幅広い用途でPCR検査が活用できる点に着目している。京大と共同研究を始めた細胞医療分野は細胞免疫系の難病の治療効果が見込まれており、研究を通じてどのような成果が生まれるのか期待される。